



第29号
平成24年夏
一般社団法人
富山県作業療法士会
地域リハビリテーション部

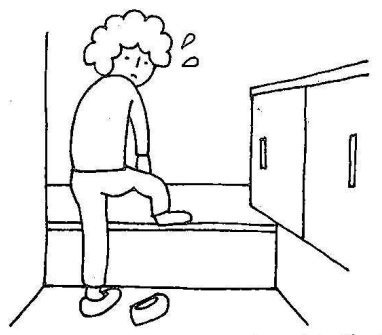
障がいをおもちで
地域で暮らす方々
施設利用者、
ご家族に向けて
リハビリテーションの
情報をわかりやすく
お伝えしていきます

福祉用具を考える ⑱

玄関まわり

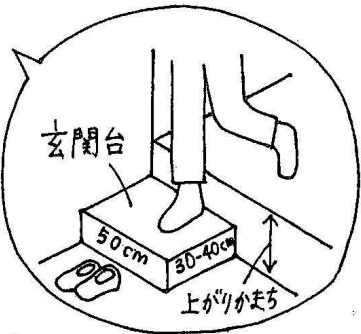
～ 玄関台、玄関手すり～

大きな段差があり、出入りしにくい玄関は、足腰の弱い人には、大変危険です。そこで、段差を解消できる玄関台を置くと共に、手すりを取り付けることで段差の昇り降りの際、身体を預けることができ、安心して玄関の出入りができるようになります。



玄関台の利用

上がりかまちの段差は、玄関台を設置して段差を小分けにすると、昇降しやすくなります。玄関台を選ぶ際は、利用される人が安全に通行できる大きさを選んで下さい。



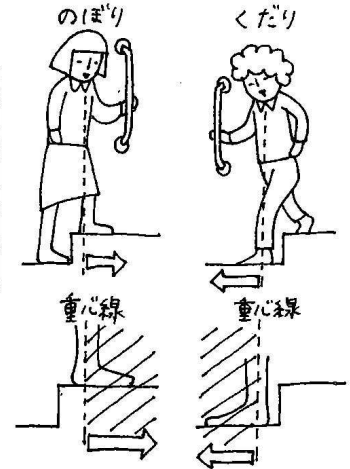
幅は50cm、奥行きは30～40cmがめやすです。高さは上がりかまちの高さと利用される人の能力に合わせ、1段、2段、3段のものを選んで下さい。

※ 介護保険（住宅改修）を利用することもできます。そのためは、玄関台を固定しなくてはなりません。詳しくは担当ケアマネジャーまでおたずね下さい。

玄関手すり

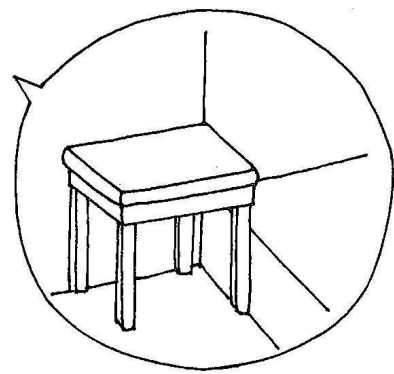
段差の昇降を安全に行えるよう手すりを取り付けます。段差を昇ったり、立ち上がりなどの上下運動時には、縦手すりが有効で、ふらつきを安定させます。

手すりの位置決めのポイントとして…手すりは段に乗せた（昇る、降りる）足の重心線より前方に設置するとよいでしょう。段差の先端の直上にあると、昇降の後半で、手すりが身体より後方に位置し、自然な姿勢で手すりをつかむことができません。



椅子を利用した靴の脱ぎ履き

段差を降りるとき、靴に足を入れようとして、ふらついたりつまずく危険性があります。バランス能力の低下した方は、上がりかまちの段差の昇降と靴の脱ぎ履き動作を別に行うことが望ましいといえます。



土間に椅子を一脚置いて座って靴を履くと安心です。

手すりと玄関台を組み合わせる場合には、土間、玄関台、屋内側を移動する横手すりが必要です。土間側に横手すりがあると、体重を掛けながら、土間側に降りても、体の前でつかむことができ、靴の脱ぎ履き動作が安定します。手すりの高さは70～80cmがめやすですが、利用される人の体格や能力に合わせて、高さ、長さ、形状など調節することが大切です。縦手すり、横手すりを組み合わせたL字型や、斜め手すりなど利用される人に合わせて選びましょう。

